

## 2017年3月期 第3四半期決算に関する主な質問

2017年3月13日

セガサミーホールディングス株式会社

### ■全体について

Q：第3四半期累計実績が通期修正計画を超過しているが、通期業績予想を修正しない理由は？

A：各事業において、複数の大型タイトルの販売が集中したことから、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が2016年11月2日に公表した2017年3月期通期連結業績予想を超過しております。一方で、第4四半期におきましては、各事業において大型タイトルの販売がないことや、今後の販売動向および営業費用の発生状況等を見極める必要があることから、2017年3月期通期連結業績予想については、2016年11月2日に公表した内容から変更はございません。業績予想修正の必要がある場合には、速やかに公表いたします。

### ■遊技機事業について

Q：第3四半期は比較的堅調な状況だが、第4四半期の業績は？

A：第4四半期におきましては、パチスロ遊技機において『パチスロ牙狼-守りし者-』や『パチスロエウレカセブン AO』等の販売を実施するほか、パチンコ遊技機においてスペック替え等の販売を中心に実施してまいります。

Q：遊技機事業の市場環境は？

A：パチスロの市場環境については、旧基準機の稼働が引き続き堅調なため、新基準機の販売が伸び悩む傾向にあります。また、2017年10月には更なる自主規制（5.9号機規制）を控えていることから、不透明な状況が続くとみております。パチンコの市場においては、足元では射幸性の低いタイトルでも、販売や稼働が堅調に推移しているものも出て来ていると認識しております。一方で、市場全体での稼働水準はいまだ安定しているとまでは言い切れないため、しばらく注視する必要あると考えております。

### ■エンタテインメントコンテンツ事業について

Q：第3四半期が好調の要因は？

A：デジタルゲーム分野において既存主カタイトルが堅調に推移した他、パッケージゲーム分野、アミューズメント機器分野において、大型タイトルの販売が集中したことから好調に推移いたしました。

Q：第4四半期は赤字になるような見えた目だが、要因は？

A：第3四半期は大型タイトルの販売が複数集中したことから、大きく収益が出たと認識しております。一方、第4四半期においては大型タイトルがないことや、期末に向けて新作タイトル等の販売動向や営業費用の発生状況等を慎重に見極める必要がございます。

### ■リゾート事業について

Q：釜山プロジェクトの中止の目的は？

A：財務体質の改善および資本効率の向上や、パラダイスシティを初めとした、IR(統合型リゾート)に経営資源を集中するため、韓国釜山広域市における複合施設開発の中止を決定いたしました。

Q：IR(統合型リゾート)事業について、推進法案成立後何か動きはあるか？

A：今後実施法案が成立し、IR 施設を日本に導入できる環境が整うことを期待しております。当社としてはフェニックス・シーガイア・リゾートやパラダイスシティの取り組みを通じて IR(統合型リゾート)事業のノウハウを蓄積しております。

#### ■来期について

Q：来期(2018年3月期)計画についてはどのように考えているか？

A：来期の計画については現在精査中ですが、遊技機事業の市場環境はパチスロを中心に不透明な状況が続くと見られます。また、エンタテインメントコンテンツ事業においては、今期に大型タイトルが集中していたことから、来期のラインナップ等を慎重に見極める必要があります。当社は、2020 年 3 月期中期経営目標の達成に向け、引き続き取り組んでまいります。

以上

※本資料における業績見通し等の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、経営者が判断したものであります。

従って、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって大きく異なる結果となりうることを予めご承知おき下さい。